

令和 8 年度

横浜市立動物園等 管理運営実施計画書（公表版）

よこはま動物園

野毛山動物園、野毛山公園

金沢動物園、金沢自然公園

令和 8 年 3 月 31 日

公益財団法人 横浜市緑の協会

令和8年度 横浜市立動物園等 管理運営実施計画書目次

1	はじめに	1
(1)	令和8年度実施計画書の方向性	1
(2)	令和8年度の主な取組	1
2	管理体制計画	2
(1)	動物園等の管理体制	2
(2)	人材マネジメントの取組	3
(3)	リスクマネジメントへの対応	4
3	運営及び経営の取組計画	4
(1)	目標	5
(2)	マーケティング戦略の展開	5
(3)	動物園マネジメントの取組	9
(4)	教育普及業務	10
4	動物の飼育管理計画	12
(1)	飼育現場での取組	12
(2)	保全に貢献する取組	13
(3)	調査・研究などに対する取組	14
(4)	繁殖センター事業	15
5	施設等の維持管理計画	15
(1)	施設管理	15
(2)	園地及び遊具等の維持管理	16
(3)	樹木・植栽等の育成管理	16
6	管理運営経費計画	16
(1)	収入	16
(2)	支出	16

※令和8年度実施計画に関して、各種事業の変更や中止を行う場合、横浜市等と協議の上、随時案内します

1 はじめに

横浜市立動物園等管理運営実施計画書（以下、「実施計画書」という。）は、指定管理者である公益財団法人横浜市緑の協会（以下、「当団体」という。）が横浜市立動物園等の指定管理事業計画書（以下、「事業計画書」という。）で提案した令和8年4月1日から令和18年3月31日までの10年間の計画に基づき年度ごとに提案し、横浜市との協議を経て策定するものです。

（1）令和8年度実施計画書の方向性

本実施計画書では、事業計画書で提案した基本的な方針を達成するため、事業評価報告書等における指摘事項等を踏まえ、令和8年度の年度計画を定めます。

基本的な方針（事業計画書より）

「豊かな地球を未来へ引き継ぐために社会を変えていく動物園をビジョンとして掲げ、各動物園の特性を活かした取組をさらに生物多様性保全の拠点として価値を高めるべく、以下を基本方針とします。

- ◆動物に魅せられ、共に生きることの大切さを感じられる場の提供をします。
- ◆野生生物に対する科学的な知識を深め、その情報を市民の皆様と共有します。
- ◆野生生物や生息環境のことを多くの人々に伝え、行動につなげます。
- ◆世界と手を取り合って、野生生物を計画的に守っていきます。

（2）令和8年度の主な取組

上記の基本方針等のもと、以下の管理運営方針に則り、令和8年度の事業を進めます。

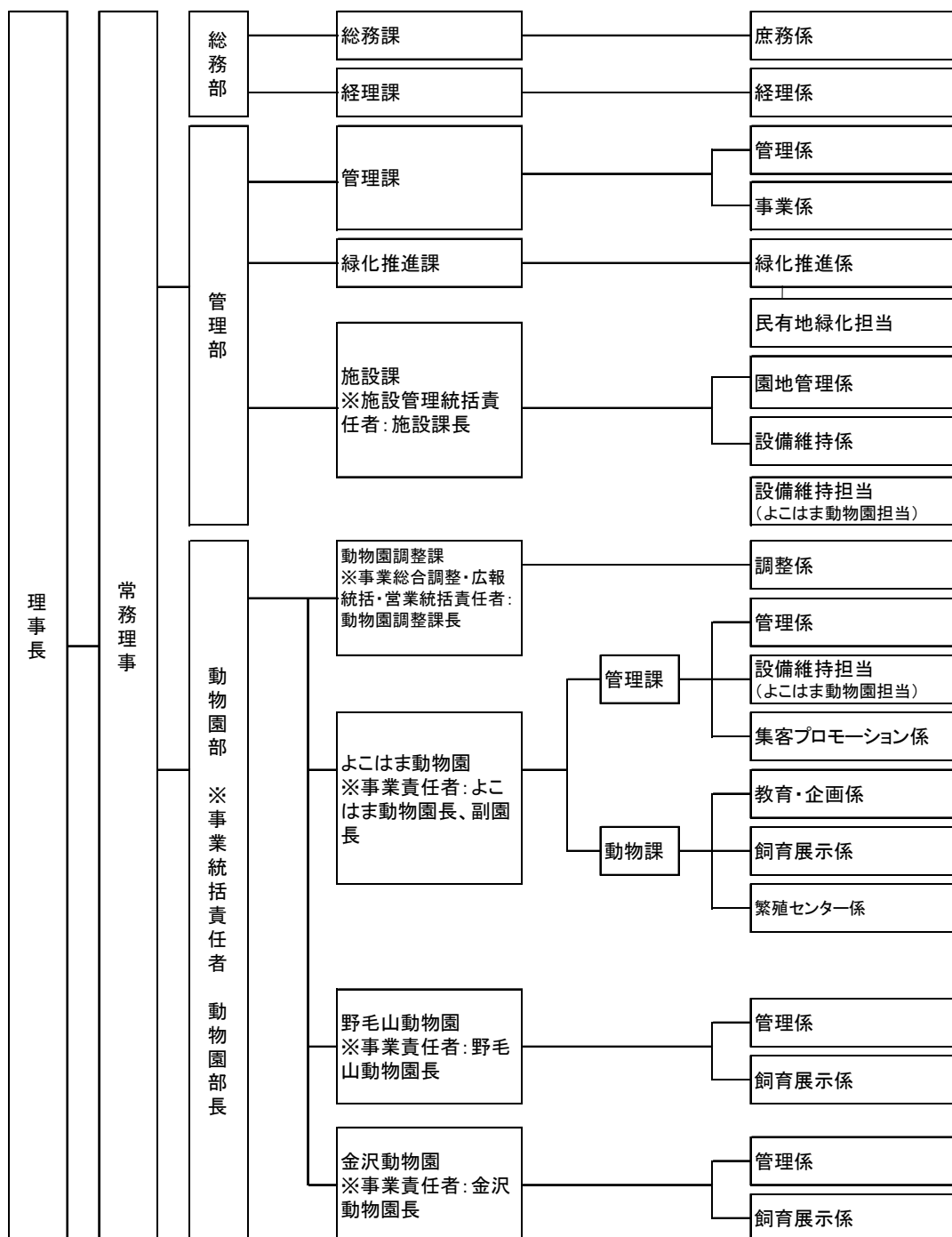
管理運営方針 (事業計画書より)	令和8年度の主な取組
① 動物に魅せられ、共に生きることの大切さを感じられる場を提供します。	・動物や緑豊かな動物園の魅力を体感できる動物の展示と施設、緑の維持管理 ・誰もが安全・安心・快適に動物園を体験できるサービスの提供と賑わいの創出 ・動物や動物園の情報発信による人々の興味喚起と施設利用の促進
② 野生生物に対する科学的な知識を深め、その情報を市民と共有します。	・野生動物の飼育、繁殖技術の向上等に資する調査研究の実施 ・動物園のフィールドを活用し、大学や研究機関と連携した調査研究の推進 ・調査研究成果の情報発信による市民への還元
③ 野生生物や生息環境のことを多くの人々に伝え、行動につなげます。	・子どもたちをはじめ、様々な人々が知り学べる環境教育の実施 ・SDGs等の社会が直面している課題を考え、分かち合う場の改善 ・教育や啓発を通じたNP・NbS等の保全意識の向上と行動変容の促進
④ 世界と手を取り合って、野生生物を計画的に守っていきます。	・国内外の動物園や関係機関、繁殖計画と連携した希少野生動物等の保全 ・アニマルウェルフェアに即した飼育管理及び獣医療の実施 ・地域の生物多様性保全への貢献

2 管理体制計画

(1) 動物園等の管理体制

3 動物園等を一体管理することにより、各園が連携して事業効果を高めるとともに、独自の魅力や機能・役割を発揮しながら成長できるよう、総合的に調整できる運営組織を編成します。また、よこはま動物園には、管理体制を強化する観点から新たに管理課長を1名配置すると共に、動物飼育、教育普及を強化する観点から動物課長を1名配置し、教育・企画係を新設します。さらに集客プロモーション係を新設し、利用促進、団体誘致、集客施策企画等を強化します。さらに、繁殖センターを係として加えた6係体制とします。

【令和8年度事業執行体制】



(2) 人材マネジメントの取組

当協会の人材育成ビジョンの基本方針に沿い、今後の動物園運営を担う人材の育成を図ります。また、動物園の社会的価値を向上し、自律的かつ持続可能な動物園運営を行えるよう、必要なノウハウの「習得」「蓄積」「継承」「発展」を担える人材を継続的に育成します。

① 人材育成基本方針

- ア 職員の「成長実感＝やりがい」を支援する
- イ 職員の能力を向上させ、「自信」を育む
- ウ 「人を育てる組織風土」を醸成し、組織全体の力を高める

② 職種ごとの果たすべき役割

職種	果たすべき役割
事務	動物園の管理運営が円滑に遂行できるよう、来園者サービスや集客を含む施設の管理運営や、文書事務のエキスパートとしての役割を担うとともに、市民や企業、団体、行政等のステークホルダーと積極的に対話し、調整します。
造園	動物園の施設について、長期的な展望を見据えた施設維持や植栽等の園内樹木の維持管理を行うとともに、利用者の安全・安心・快適を確保できるように予防保全を図ります。また、動物園及び自然公園における生物多様性保全への対応策としての緑化、市民連携等の業務に対応します。
動物・獣医	動物の飼育管理、繁殖、生理生態、獣医療、研究に関する知識や技術を持ち、飼育管理や繁殖、域内外の保全活動を通じて、アニマルウェルフェアや生物多様性保全、環境教育等を推進します。また、国内外の様々な関係者との対応、調整により動物園の存在価値を高めると共に、生きもののエキスパートとしての役割を担います。

③ 計画的な人材育成

上記職種ごとの果たすべき役割を達成するため、お客様サービス、専門性向上に資する研修を行い、人材育成を図ります。

④ 資格取得の奨励

人材育成支援制度に基づき、職員自ら提案したスキルアップに資する事項について、将来に向けた職員の知識・技術習得を支援することで、職員が自律的かつ持続可能で効率的な組織運営を担えるよう人材育成を図ります。

⑤ OJT（実践トレーニング）の取組

上司・先輩からの指導（タテ）を基本としながら、同僚間の相互教育（ヨコ）他部署との技術・知識交換（ナナメ）により、知識・技術・ノウハウの習得を図ります。メンター（教える側）は日々の業務のなかで、教えられる側個々人に知識・技術の習得状況を確認しながらOJTを進めます。

⑥ 良好な職場環境作りへの取組

職員が安心して業務に取り組むことができるよう、超過勤務縮減、年次有給休暇の計画的な取得等を進めるマネジメントを行うほか、「横浜市健康経営認証クラスAA」の認証事業者として健康維持に係る啓発活動などを実施することで、職員のワーク・ライフ・バランスの向上や心身の健康管理の推進に取り組みます。

⑦ ファンドレイジングの基礎知識の習得

戦略的なファンドレイジングを進めていくため、「准認定ファンドレイザー」の基礎講座受講を進めます。また、有資格者の継続更新と無料勉強会の参加も毎年続けます。

(3) リスクマネジメントへの対応

緊急時および災害へ備えるため、訓練を実施するとともに、リスクマネジメントマニュアルに則り、リスクマネジメント委員会を開催します。災害時には速やかに園内の特別巡視を行い、安全確保に努めます。さらに、大規模災害時の災害混雑時でもつながりやすい災害用無線機兼電話機を、各園及び動物園調整課に配置します。

また、動物との事故防止のため、引き続き安全対策研修を年4回実施し、四半期ごとに職員の安全意識向上を図ります。過去の動物との事故事例の共有、動物舎の施錠確認の抜き打ち検査、確認作業の徹底、掲示物での注意喚起等のほか、グループワークにてヒヤリハット事例を仮定し、安全対策についての意見交換を行うワークショップ形式の研修や自身や組織に対する安全管理や安全意識の振り返りを行う研修を実施することで、安全に関する更なる意識醸成をはかります。労災を含む事故発生時には速やかに注意喚起するとともに直近の安全衛生委員会にて報告・共有し、対策の検討を行うことで事故防止に役立てます。

さらに、施設や園地管理における事故防止のために安全研修を実施します。事故・トラブル発生時には、早急な報告、原因究明と対策に努めます。

3 運営及び経営の取組計画

動物園の役割「種の保全、調査・研究、環境教育、レクリエーション」に関する事業を、国内外の動物園のみならず多様な関連組織と連携、協力しながら実施し、その成果を広く世界に向けて発信します。また、令和8年度から繁殖センターの指定管理が3動物園の指定管理に加わったことにより、繁殖センターの調査・研究のノウハウを3動物園と共有し、種の保全を効果的に進めるとともに、繁殖センターと3動物園を一体運営することで、スケールメリットを活かした管理運営を行い、組織の活性化を図ります。これらにより、絶滅の危機にある野生動物の生息環境や生物多様性保全に貢献するほか、市民・来園者の皆さまに地球環境保全のための行動変容と社会改革を促します。

また、横浜市が進める「3つのZOO 未来プロジェクト」に協力し、子どもを中心に、多様な体験や学びの場を創出するとともに、横浜の都市としての魅力やブランド力の向上に繋がります。横浜市が行う野毛山動物園リニューアルを踏まえた動物移動等の準備や休園前のイベント企画等に取り組みます。更に「GREEN×EXPO 2027」に向け、各園でポスターの設置やパンフレット・入園チケット等へロゴマークを掲載します。金沢動物園では区役所等のGREEN×EXPO 2027関連企画と連携し、園で実施するZoo to Wild Fesをはじめとしたイベントやノベルティグッズの配布等を行います。

また、集客宣伝活動により来園者数を増やすとともに、来園者や企業団体等との関わりをより深め、支援につなげることで、入園料収入と自主財源を増やし、より良い動物園経営を目指します。

(1) 目標

① 入園者数

来園者の方々が安心して施設を利用いただけるよう、動物園運営やサービスについて多様で魅力ある体験ができる自主事業を企画実施するほか、利用者の皆様のニーズを捉えた飲食物販事業を展開します。

園名	目標人数	令和7年度来園者数（見込）
よこはま	105 万人	103 万人
野毛山	45.5 万人	49 万人
金沢	28 万人	27 万人

※野毛山はリニューアル工事のため、年度内に休園期間を設ける可能性があるため、目標入園者数を調整しています。

※令和7年度来園者数（見込）は、令和7年2月末日現在の試算です。

② 種の保全(国内外の希少野生生物種の保全の取り組み)

（公社）日本動物園水族館協会（以下、「JAZA」という。）や環境省、全国の動物園等と連携し、実効性のある保全活動に取り組むとともに、独自に海外施設等との連携を進めて飼育下個体群の維持を進めることを目標として、目安として年度単位で13種指定します。生息域外保全施設としてアニマルウェルフェアに配慮しながら、飼育動物の移動や繁殖等の飼育管理により、飼育下個体群の遺伝的多様性の保持に努めます。海外からの動物収集については、横浜市の動物園基金を活用します。

③ 環境教育プログラム

市民に対し、動物たちの生息環境や生物多様性保全の重要性を学び、持続可能な社会の構築を目指す環境教育プログラムを提供します。プログラムは、教育現場の要望に対応するだけでなく、社会情勢も加味し、動物園としての教育目標を反映させていきます。

令和8年度の目標として、日常的なガイドに加え、より専門的な講演会・連続講座等における環境教育を目的としたプログラム参加者数（学校プログラム以外）を3園で年間30万人とします。

(2) マーケティング戦略の展開

来園者のニーズなどをふまえたマーケティング施策を以下のとおり行い、集客に努めます。よこはま動物園に集客プロモーション係を新設し、利用促進、団体誘致、集客施策企画等を強化します。また、動物園調整課と連携・情報共有し、成果のあった取組については、野毛山動物園、金沢動物園への展開を図ります。

各園の目指すブランドイメージについては概ね確立されているため、アクセスログの分析など定量的に測定できるデータによる効果検証を行い、各園のブランディングをより一層進めます。

① 3園の現状分析と令和8年度集客に向けた方針

園名	方針
よこはま	＜現状分析＞ 市内・県内だけでなく、都内でも3園のなかで最も認知度が高い傾向がある一方で、来訪経験においては、市内・県内に比べ都内は少ない状況にあります。ブランドイメージに関しては、動物の種類が多いことや動物の暮らす自然環境も感じられる場所として認知されていることが分かりました。

	<方針> 希少動物の繁殖、展示を機会として、従来のイベントに加え、様々な環境教育プログラムなどを提供し利用促進を図ります。また、ブランディングを軸として、園の季節ごとの見どころを整理し、広告やPR、SNS等による効果的な発信により認知度や来園意向を高めます。都内をはじめとする来訪経験の少ないエリアには、沿線鉄道会社との連携などにより、相互誘客を図ります。さらに、健康保険組合等のウォーキングイベントを実施するなど、多様な利用ニーズを捉え、団体誘致施策に取り組みます。
野毛山	<現状分析> 横浜の観光地である、みなとみらいの立地と駅から歩いて行ける場所である一方で、動物園までの登り坂や施設の老朽化がネックとなっています。小さな子ども入門の動物園としての認知度も高く、無料で親しみやすいブランドイメージを獲得しています。 令和7年度は、リニューアル先行工事が終了し、人気施設であるなかよし広場がオープンし、個人、団体共に工事以前の水準まで来園者が回復しています。令和8年度以降に計画されているリニューアル工事に向けて展示動物の搬出が始まり、動物種は減少しているが、新たに人気動物のマヌルネコが来園するなどにより更なる集客が見込まれています。 <方針> 令和8年度以降に計画されているリニューアル工事に伴う一時休園に向けたイベントを実施します。このイベントは、これまで回を重ねて実施されたイベントに加え、新たに物販を伴うイベントや有料参加型のイベントなど、来園者増加と収益増加を併せたイベントを含みます。 大規模なリニューアルに向けて、これまでの動物園の歴史を振り返るとともに、来園者にリニューアル後への期待を抱いていただけるよう取り組みます。
金沢	<現状分析> 横須賀・湘南エリアでの認知度、来園割合が高いものの、市内・県内において認知度、来園割合の低いエリアがあることが課題です。また、動物園に期待される肉食動物がいないことや、施設の老朽化も集客には不利な要素です。一方で、自然豊かで家族とのんびり楽しめる場所としてブランドイメージを獲得していることがわかりました。また、保全活動に力を入れていることが当園の特色です。 <方針> 希少草食動物の魅力や周年事業を行うとともに、自然公園の身近な生き物や保全活動について楽しく学べる企画を提供し環境教育の普及に努めます。園の認知度を高めるため、ポスター、チラシに加え、SNS等やWeb広告、キャラクターなどを活用し、情報発信に努めます。また、市区、各種団体、商店街等と連携し、地域での集客も図ります。

② 潜在的な来園者を想定した来園者増の取組

各園の特徴を意識した広報は、以下のとおり行います。

ア 広報

効果的な媒体の選択による情報発信により、新規ファンの拡大やリピーターの獲得、認知度の向上、誘客促進を図り、ブランディングを基軸とした戦略的な広報に取り組みます。また、データを基にした広報活動の振返りを行います。

イ 園外PR・地域連携活動

近隣地域を中心に、動物園外において実施されるイベント等に積極的に協力することで地元の方々への動物園事業に対する理解促進、来園促進に取り組みます。また、当団体で管理する公園等の施設との連携強化に努めます。

ウ 各種団体への誘致活動

集客プロモーション部署を新設して専従職員を配置することで、各種福利厚生団体等の誘致に取り組むとともに、団体利用における多用なニーズに対応し、企画準備から当日の利用までサポートを行います。

エ 公民連携事業の実施

企業と連携し作成したオリジナルの動物お面づくりワークショップを通して、動物について工作をしながら楽しく学べるよう取り組みます。引き続き企業等と意見交換を行い、新たな連携事業の実施に取り組みます。

③ 動物園の支援者を増やす取組

動物園への関心を深めることにより、動物園を応援するファン（寄付者）を増やします。各種イベントやガイド等、様々な場面を通して動物園の4つの役割を伝え、ドナーピラミッドを構成する方々の支援レベルの向上に取り組みます。動物園の支援者の方々（友の会会員、アニマルペアレント、イベント参加者等）の獲得だけでなく、ステークホルダーピラミッドを詳細に分析することにより一過性ではない包括的なファンドレイジング（戦略的な寄付募集等）を行います。

ア 潜在的寄付者を増やす取組

ホームページで寄付ページを掲載するほか、動物園友の会会報等に広告を出稿するなどのアプローチをします。また、動物ガイドやイベント開催時にアニマルペアレントや寄付の呼びかけを行うほか、園外PRの際にも周知します。さらに、特定公益増進法人である当団体に寄付した場合に認められる、税額控除等のメリットを周知、広報します。

イ 新規の寄付者を増やす取組

保全意識向上や子どもの関心、大人の知識欲に応えるプログラムの実施（大人向け連続講座：3園連携企画「魅力発見！横浜3動物園めぐり」を継続的に実施）やボランティア活動支援を行うことで、動物園への理解を深めて支援者を増やしていきます。これらの参加者に向けて、また、動物の繁殖や新規導入等の機会を捉え、アニマルペアレント制度を広く周知するとともに、寄付により改修した施設等を紹介することにより、寄付への理解を促し、新たな支援の確保を図ります。野毛山動物園では、園内施設の改修等による魅力向上や、来園者の利便性向上に資する取組に活用するため、園内に設置してある募金箱のほか、カプセルトイ式の募金も実施します。

ウ リピートしてくれる寄付者を増やす取組

アニマルペアレント（動物の飼育環境改善に対する寄付）に支援いただいた方々に対し、継続的な支援が得られるよう、ニュースレターの送付や感謝の日イベントを通じて丁寧なコミュニケーションを図ります。

エ 企業からの支援を増やす取組

企業向けのセールスシート等を用い、積極的な企業へのアプローチを行うほか企業イメ

ージアップ等の寄付メリットに関する周知・広報を行うことで資金獲得に努め、協賛企業と共に動物園の様々な取組を推進します。また、企業や公共団体からの研修依頼等にも対応し、環境教育の促進と潜在的な寄付者及び連携先の発掘に取り組みます。

オ 大口寄付者（遺贈を含む）を増やす取組

個人からの寄付や遺贈等を柔軟に受け入れ、寄付者の意向に沿って活用します。寄付や遺贈をしやすい仕組みづくりを行うことで支援者の拡大に努めます。友の会会員やアニマルペアレントなど、すでにご支援をいただいている寄付者から更にご支援いただけるよう、ファンミーティングや感謝の日を通じて動物園での取組みや寄付金等による使用用途の紹介を丁寧に行うことで理解を深めていただけるよう努めます。

④ 利用者の声を反映したマーケティング分析の取組

利用者の特性やニーズを継続的に把握し、PDCA サイクルイメージに基づき、各園のコンセプトに沿った「話題づくり」「集客営業」「広報・広告」を効果的に実施します。

ア 来園者調査・非来園者調査

3園で利用者アンケート等を行い、来園者の状況やニーズを把握し、利用促進と満足度の向上を図ります。また、これまでに実施した非来園者の Web 調査の結果を踏まえつつ、来園者調査の分析を補強すると共に、来園に向けた訴求点やブランディングの方向性を捉え、来園促進を図ります。

イ イベント等での満足度調査

イベント等の参加者の顧客情報や満足度、具体的な感想を収集することにより、効果や改善点を把握し、改善や新たな企画に活かします。

ウ 子どもの意見把握

イベント実施時のアンケート等で意見を聴取し、内容の改善に反映するなど、子どもの意見を管理運営に活かします。

エ 利用者のご意見・ご要望を伺う制度

引き続きホームページ上に「ご意見・ご要望」および「お問合せ」フォームを設置します。いただいたご意見等の内容は情報共有を行い、2週間以内に回答するとともに必要に応じて改善を図ります。

オ モニタリングによる自己評価とその改善

横浜市職員によるモニタリングを受け、各動物園及び協会本部で仕様書に定められた事項の進捗を自己評価するとともに、意見交換を行うことで業務改善につなげます。

カ 各種会議での情報共有

利用者の生の声を管理の質・来園者サービスの向上に役立てるため、職員に対し朝礼や昼礼、定例会議で情報共有を行うほか、園の管理運営に携わる委託業者等に対しても会議

の場を設け情報共有し、課題解決に取り組めます。

キ お客様からの意見、要望も取り入れながら行う、来園者サービス向上への取組

主な取組
レンタルサービス、キッチンカー、補助犬対応、デジタルマップ（多言語）、筆談対応、オリジナルグッズ販売、キャッシュレス対応、電子チケット対応、モバイルバッテリーの貸出、園内バスの運行 等

（３）動物園マネジメントの取組

① 新たな社会的要請の発生に対する取組

危機的な自然環境の悪化や生物多様性の損失、新型コロナウイルス感染症の流行などを受け、SDG s や NP、NbS の達成、そしてウェルビーイングの実現や、ワンヘルス、インクルージョンの推進に取り組めます。さらに、2022 年の博物館法改正を受け、社会教育・文化的役割をより充実させていきます。また、環境に配慮した施設の維持管理等の様々な事業を多様な主体と連携して行うことで、SDG s 達成に向けた取組を進めます。該当する SDG s の取組は以下のとおりです。

ア 環境分野

取組	主な取組
生物多様性保全への貢献	・動物園における種の保存（P. 13～14 参照）
環境負荷の低減に向けた取組	・グリーン電力の導入 ・廃棄物の削減（ゾウ糞のたい肥化、業者排出のコーヒー滓を動物舎敷材に利用）、公園の剪定枝を一部飼料として活用 ・ミズアブを利用した動物糞の堆肥化について大学と共同研究 ・市内事業者から出た不要食材を動物飼料へ活用 ・園内 MAP の自由配付終了によるペーパーレス化

イ 社会分野

取組	主な取組
多様な教育普及	・学校教育プログラムの実施（P. 10-11 参照） ・保全意識向上を図るプログラムの実施（P. 11 参照）
市民参加と市民協働による地域の活性化	・動物園への市民参加を促す多様な事業の展開（P. 10 参照） ・ボランティアが活動する管理運営の推進（P. 10 参照）
誰も安全・安心・快適に利用できる施設の管理運営	・防災訓練（P. 6 参照）、動物捕獲訓練等の実施（P. 13 参照） ・施設等の維持管理計画に則した施設点検等（P. 15 参照）

ウ 経済分野

取組	主な取組
地域事業者との連携による地域経済の活性化	・市内生産農家から動物飼料である青草、ユウカリ、木の葉等を栽培・調達 ・飲食・物販事業者と連携した食材等の地産地消の推進

エ ガバナンス

取組	主な取組
多様な主体とのパートナーシップによる事業推進	・環境：WAZA、JAZA、大学等との連携 ・社会：学校、地域団体、ボランティア等との連携 ・経済：市内生産農家等との連携

② 自主事業の取組

季節や各動物園の特性を生かした自主事業を行い、3動物園の利用促進を図ります。
野毛山動物園では、令和8年度以降に計画されているリニューアル工事に伴う一時休園に向けたイベントを実施し、各園ではSDGsや生物多様性のテーマを取り入れたイベント、野生生物保全に向けた取組などを多様な団体と連携を図りながら実施します。

一部の企画を有料で実施し、来園者が希少動物の生息地の保全活動に参画できる場の提供を行います。さらに大人向けの講演会などのコアなファンの知識欲を満たす企画については有料化することで経営資源の1つとして戦略的に取り組みます。

また、2027年に開催されるGREEN×EXPO 2027と連携して、博覧会と動物園に共通する「生物多様性の保全」等をテーマとするイベントを開催し、市民の興味喚起と相互誘客を図ります。

③ 市民主体のボランティア活動の支援

企業、学校、市民団体等のボランティア活動の支援を推進し、市民の活力ある暮らしの機会創出や、地域の活性化に貢献します。

(4) 教育普及業務

「伝える」相手の年齢、属性等を意識し、様々な人を対象とした、持続可能な社会の構築に向けた行動変容を促す教育普及プログラムを提供します。実施にあたっては、3園の展示動物種や立地を活かし、目的や対象を明確にした教育活動を展開すると共に、実物観察を基本とし、加えてオンラインでの授業やデジタル教材の活用により、現地観察と遠隔学習を補完的に提供します。一部のプログラムでは、参加費を徴収し運営費に充てるほか、収益の一部を生息地での保全活動へ寄付するなど、参加者が保全活動に直接または間接的に関与できる仕組みを構築します。

また、博物館相当施設として、各園の標本の収蔵・記録・利用の現状を整理し、管理方法や記録様式を見直し、効果的な標本活用の基盤整備を進めます。

デジタルアーカイブにおいては、動物園ならではの資料の公開に向けた準備を進めます。

① 学校教育プログラムの推進

ア 学校教育プログラム

	プログラムタイトル	概要	よこはま	野毛山	金沢
来園プログラム	① どうぶつ園のじゅうい	獣医の一日を写真で紹介	●	●	●
	② どうぶつの赤ちゃん	動物たちの子育てやその違いについて解説	●	●	●
	③ 動物たちにズームイン	クイズを通じた動物の解説	●	●	●
	④ 飼育員の一日	飼育員の1日の仕事を解説	●	●	●
	⑤ ゴーラシアの飼育員	動物園の役割や飼育員の仕事内容等を解説	●		
	⑥ 動物福祉の取組	よこはま動物園や動物福祉の取組等を解説	●		
	⑦ 動物園の概要	動物園の役割やよこはま動物園の特徴等について解説	●		
	⑧ オンライン de レッツスタディ ゴーラシア	横浜市外の学校向けに、①～⑦のプログラムをオンラインで実施	●		
	⑨ しっぽの使い方	動物のしっぽの使い方を紹介	●		
	⑩ オスとメスの違い	オスとメスの体の違いを解説	●		

⑪	色々な赤ちゃん	おとなと比較し、赤ちゃんだけの特徴の解説	●		
⑫	獣医師のお仕事	写真を用いて動物の病気やケガの解説	●		
⑬	固有種が教えてくれること	金沢動物園で飼育展示している日本の固有種についての解説			●
⑭	動物のほねときん肉	骨格標本と写真を見せながら、動物の骨と筋肉についての解説			●
⑮	虫はかせになろう	昆虫の説明と身近な生き物の観察			●
⑯	どうぶつとSDGs	動物園の社会的役割やゾウの飼育方法を題材に、動物園でのSDGsの取り組みを紹介			●
⑰	キリンのおやつガイド	木の葉を食べるキリンの観察と飼育員の解説			●
⑱	ゾウの健康大作戦！ガイド	ゾウが健康で長生きするための飼育の工夫を、飼育員がゾウを観察しながらガイド			●
⑲	獣舎バックヤードツアー	動物の寝室と飼料庫（エサ置き場）に案内し、解説	●		
⑳	職業体験	掃除や餌の準備、接客等の体験	●	●	●
㉑	職場見学	環境問題に取り組む動物園の役割の紹介	●	●	●
㉒	職業インタビュー	スタッフに動物園の仕事についてのインタビューに対応	●	●	●

イ 学校教員と内容を相談しながら作り上げるプログラム

動物園への来園回数により内容は異なりますが、教員、児童の要望に応じてオリジナルでの授業を行います。

	プログラムタイトル	概要
3園	動物園学習	1回の出張もしくは来園で実施するプログラム
	連携授業	2回以上（1回以上の来園が含まれる）連続して実施するプログラム

② 環境教育プログラム

動物ガイドやイベントによる環境および生物多様性保全意識の普及と市民の行動変容を促す取組を行います。職員に対しては環境や生物多様性保全に関する研修の実施や生息地の視察等により、保全意識の向上を図ります。また、世界○○の日などの開催にあたっては、様々な保全団体と連携し種の保全意識の普及を行うとともに、募金を通じて保全への参画を促せる企画を実施します。その効果についてはアンケート等により評価します。

その他、一般来園者を対象に、動物たちの生息環境や生物多様性保全の重要性を伝える通年プログラムも実施します。

③ 標本管理・デジタルアーカイブ

3園共通の視点で標本管理とデジタルアーカイブの整理に着手し始めます。標本の所在や記録状況など現状を把握し、教育的な活用を主目的とした管理ガイドラインの作成を進めます。また、デジタルアーカイブにおいては、動物園ならではの資料を公開することを目標として、対象や情報項目、保存方法の検討を進め、公開に向けた段階的な土台づくりを行います。

(1) 飼育現場での取組

世界の野生動物の現状への理解を深めてもらえるよう、動物の生態や健康維持、アニマルウェルフェアに配慮した飼育管理に取り組むほか、飼育動物の記録や飼料の調達、給餌等を行います。飼料となる青草、木の葉、ユーカリなどの栽培・生産については、市内生産農家等に依頼し、安定的な供給の確保を図るとともに、地域の活性化に取り組みます。飼料となる枝葉については、安定供給に向けた体制づくりを進めます。野毛山動物園リニューアル計画に基づく各種協力、飼育終了種における出園や整理等、リニューアル後における飼育展示開始種の事前導入及び各種調整等に適宜取り組みます。

① アニマルウェルフェア向上のための取組

3園で飼育する動物のアニマルウェルフェアの向上策として、以下の項目を中心に計画、実行します。飼育動物のアニマルウェルフェアの状態の把握に努め、横浜市とも共有しながら、アニマルウェルフェアの向上に取り組めます。

ア エンリッチメントの取組

飼育動物の多様な行動を引き出す飼育環境改善（エンリッチメント）の取組にあたっては、基礎理論に基づいた計画シートを作成し、効果検証を行い、3動物園で共有し良好なアニマルウェルフェアを確保します。

イ ハズバンダリートレーニングの取組

無麻酔での採血等、動物福祉に配慮した健康管理（ハズバンダリートレーニング）の取組にあたっては、計画シートを作成し、効果検証を行うことにより、動物福祉を向上していきます。また、種の適正に応じてスパイダーモデルに基づくトレーニングを取り入れます。

ウ 老齢個体に配慮した飼育管理の取組

動物のQOL（Quality of life）を第一に考え個体の状況に合わせた飼育管理を行います。

② 飼育現場での努力や意識向上に資する取組

ア 動物舎の維持管理

動物舎及び展示場の管理は、日常管理として施設の安全点検を行い、小破修繕を適宜実施します。また、施設の長寿命化計画に準拠し、共通のフォーマットを用いて統一基準で管理し、市に報告することで大規模修繕計画にも反映させます。

イ 動物園水族館事業、博物館事業への貢献

JAZA や関連団体の役割を担うことで、国内での動物園水族館事業、博物館事業の潮流を把握するとともに、事業の推進に貢献します。また、横浜市と連携して認定博物館への登録を目指すとともに、博物館にふさわしい施設としての条件を検討・整備していきます。

ウ SDGs への貢献

青果のB級品のほか、横浜市と連携したフードロス対策、里山ガーデンや EXPO 会場整備から出る剪定枝を飼料として利用するほか、通常は廃棄されるコーヒー豆の外皮等を獣舎の床材として使用する取組や、ゾウ糞を堆肥化し、園内や当協会管理公園の花壇に活用するなど SDGs への貢献を進めます。また、こうした取り組みについて積極的に情報発信を行います。

エ 安全管理

動物の脱出は、来園者や地域住民に大きな危険を及ぼす、特に避けるべき重大リスクであることを日頃から意識し、予防対策を講じます。安全対策研修は年4回実施し、指差喚呼の徹底を図るなど事故予防意識を醸成します。また、飼育動物の脱出を想定した来園者避難誘導訓練及び動物捕獲訓練を年1回実施します。日常の飼育業務で起きたヒヤリハット事例を重大事故の入口と捉え、ヒヤリハット報告書を作成し、職員間で共有、振り返りを行い、類似案件の発生防止に努めます。

③ 計画的な繁殖管理

重点保全種の繁殖について、繁殖センターとも連携して取り組みます。重点保全種については、令和8年度に向けて横浜市と協議によって、確定します。繁殖に取り組む準備を進める種については、国内、海外からの情報収集等に努めるほか、3動物園共通の出産計画書・報告書を作成します。

④ 動物の適切な管理

ア 防疫・衛生管理

飼育員と獣医師が密に連携し、疾病の予防に取り組むことを基本とし、日々の細かな観察及び専門的な知識と蓄積された経験に基づき、早期発見早期治療による健康管理を行います。治療にあたっては、最先端の獣医療を提供するオンデマンドサービスを活用することで、日々の外科的な処置等に役立てています。防疫面でも引き続き、高病原性鳥インフルエンザ、豚熱の感染防止に努めます。

イ 3動物園一体運営を活かした飼育管理

危険分散・老齢個体の適切な飼育等の視点から、分散飼育や動物の移動を行います。なお、キリン、レッサーパンダ等、複数の園で飼育している種については、JAZAの繁殖計画等状況に応じて個体の交換等を実施し、種の保全に取り組みます。また、野毛山動物園リニューアル工事に伴い、飼育動物の一部をよこはま動物園に移動し管理します。

(2) 保全に貢献する取組

① 世界的に評価されうるという域外保全への取組

ツシマヤマネコにおいて国内初の取組として成功した腹腔鏡を用いての人工授精は、引き続きツシマヤマネコ等ネコ科動物で取り組みます。

② JAZA 等、国内外の保全に関わる機関、団体等と連携した保全への取組

当団体が多くの実績や技術を有する種については、率先して国内外の動物園関係団体との連携を図り、保全活動に努めると共に、イベントや講演会等を通じた募金などで域内保全への貢献を進めます。また、JAZA 内の生物多様性委員会他の役割を担うことで、国内での保護・繁殖に積極的に携わります。

また、連携協定を締結した海外の地域団体や動物園等とも引き続き情報交換等を進めていきます。

③ 域内保全と連携した取組

JAZA が環境省と締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づき、ツシマヤマネコ、ミヤコカナヘビとトゲネズミ類の飼育・繁殖技術等の確立を目指し、動物園での生息域外保全を行います。また、国内外のステークホルダーと連携した保全協力事業も実施します。

④ 地域の生物多様性保全

横浜地域の生物多様性保全の向上を目的として、希少な生物の飼育繁殖による系統保存や調査研究や、管理地内の環境整備活動を行います。また、それらの知見や動物園内の環境を題材に普及啓発を実施します。

⑤ 傷病鳥獣の受入、治療および野生復帰

市内及び神奈川県下で保護された野生傷病鳥獣は安全性の確保と効率的な受け入れを実施するため金沢動物園で集約して行い、診察、治療、野生復帰のためのリハビリテーション等を行います。野生復帰できない個体については、その個体の健康状態に配慮したうえで、動物園での展示、ガイド等の教育普及活動、大学等と連携した研究等を行います。

⑥ 保全のための人材育成に向けた取組

職員の意識向上を図るため、野生動物保護研修や動物園学研修を実施します。また、希少動物の域内外保全推進のため、生息地での研修や調査、視察等を検討します。加えて、地域の生物多様性保全を目的に園内での環境整備活動を実施し、その活動を通じた OJT や保全管理研修により職員の技術開発を行います。

さらに、来園者をはじめ SNS 等を活用することで、多くの方々へ広く情報を発信します。

(3) 調査・研究などに対する取組

「横浜市内動物園における動物福祉（アニマルウェルフェア）規程」に基づき、調査・研究の推進とアニマルウェルフェアの維持向上等を両立する計画を策定し実行します。また、大学や企業等の外部組織との連携や、適切なテーマを設定した研究の実行等、職員が目標を定め調査・研究にあたるよう、人材育成に努めます。さらに、研究成果は市民向けシンポジウムの開催や論文投稿等広く公開し、市民の動物園への理解を深めます。

① 大学等外部機関との積極的な連携

研究機関等との共同研究を通じ、効果的な研究を進めることができるよう取り組みます。

② 研究発表・論文投稿

調査・研究で得られた成果等を3園の職員間で共有するため、飼育研究会を各園で開催します。顕著な成果については、学会等での発表や論文投稿に取り組みます。

③ 研究成果の市民、来園者等への積極的な発表や還元

研究成果については、市民、来園者等の方々に向けた情報発信を通じて、動物園の役割の一つである調査研究についての理解促進を図ります。

(4) 繁殖センター事業

令和8年度から繁殖センターの指定管理が3動物園の指定管理に加わったことにより、3動物園と繁殖センターとが効果的に連携し、希少野生動物の生息域外保全に取り組みます。横浜市や神奈川県内など地域に生息する希少動物の生息域内保全に努めると共に、3動物園と連携し生物多様性保全の啓発を行います。また、野生生物保全の研究施設として、3動物園と連携し、内分泌学研究や雌雄判別等の遺伝子解析等に取り組みます。さらに、繁殖センターを中心に科学研究助成金等の研究費獲得を目指し、文部科学省が指定する学術研究機関の認定申請を進めます。

① 希少野生動物の飼育繁殖及び保全の取組（生息域外保全）

国内外の希少な野生動物の生息域外保全活動と海外交流事業の推進に取り組みます。

② 希少動物の保全に関する調査・研究の推進

3動物園や岐阜大学、日本大学等と連携し、生物多様性保全を目的とした研究を推進するとともに、JAZAの配偶子バンク事業に協力します。また、学術研究機関の認定申請を進め、研究費の獲得に取り組みます。

③ 普及啓発推進

調査・研究の取組等を積極的に市民へ伝え、種の保存に関する普及啓発に取り組みます。一部のプログラムは参加費を徴収し、経営資源とします。

④ 繁殖センター特有の施設・部品の維持管理

様々な研究・実験等に使用する特殊な施設や機器の適切な維持管理・新規導入を行います。

5 施設等の維持管理計画

(1) 施設管理

飼育職員と施設職員が連携を徹底し、効果・効率的な動物舎、展示場の維持管理を行います。また、建物や電気・機械設備等は安全と機能維持を重視した維持管理を行うと共に、外壁、窓ガラス、トイレ等の日常清掃、定期清掃を行い、衛生と美観を確保します。

また、実施したものについては、月1回の報告書を横浜市へ提出します。

(2) 園地及び遊具等の維持管理

日常の巡視・清掃を基本とし、定期の点検・清掃や機密・臨時点検を組み合わせることで予防保全に努めます。また、災害時には、特別巡視・点検によって迅速な被害確認と早期の応急復旧に努めます。その他、園地の特徴や危険箇所等を記載したハザードマップを作成し、管理に活用するとともに、災害時や不具合の発生時の来園者の安全確保や早期修繕の行動手順をマニュアル化し活用します。

(3) 樹木・植栽等の育成管理

市の維持管理基本水準書に準拠し、かつゾーン毎に植栽の管理方法やポイントを定めた「植栽管理マニュアル」や、「植物年間作業計画」を作成し植栽管理に取り組みます。

6 管理運営経費計画

提案書においては、近年の著しい賃金・物価高騰や労務単価の上昇等の影響により、指定管理料と利用料金収入のみでは管理運営経費を賄うことが厳しい状況と見込んでおり、自主事業の財源及び団体運営の財源として活用していた便益施設等の収益（駐車場の値上げも見込む）を指定管理事業に充当することで、管理運営経費を賄うこととしていました。

指定管理料予算に合わせ、横浜市と協議の上、サービス・委託料の調整を行います。

また、収入の確保と経費の節減等に以下のとおり取り組み、経営改善に努めます。

(1) 収入

自主事業の料金の見直しや一部有料化を行うほか、アニマルペアレント支援金等の増加や協賛企業への更なる支援を働きかけ、自主事業の財源を確保に努めます。新たに、多様なファンドレイジングに取り組みます。

収益事業では、キャッシュレス対応機導入に伴う自動販売機運営の見直し等により収益拡大を図り、自主事業の財源として活用します。また、年間パスポートの利用者や入園者数を増やすことで、入園料収入の増に努めます。

(2) 支出

質の高い動物園運営に必要な予算を確保するほか、電気や水道の適切なマネジメントや横浜市と照明の LED 化を進め、光熱水費の節減に努めます。横浜市の方針に則り園内マップの配布の終了、傷病鳥獣受入れの金沢動物園への集約化を行うことで、効率的な運営を行うとともに、飼料をはじめとする物品調達については、共同発注による入札等により、経費節減を図ります。